

# 町の将来目標が定まりました！

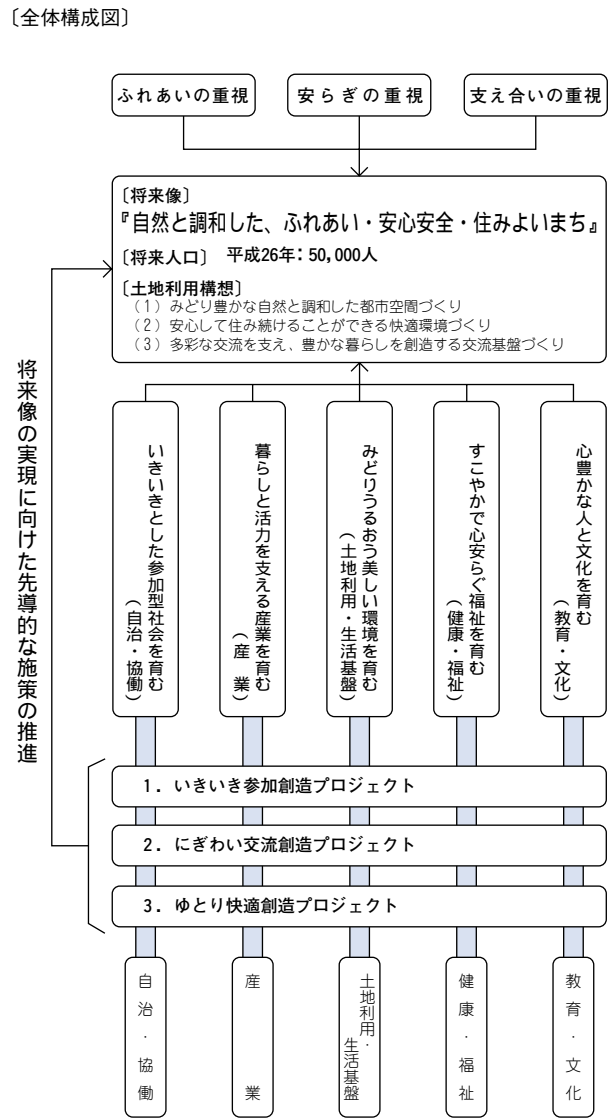
## 「自然」と調和した、ふれあい・安心安全・住みよいまち」

平成26年度 目標人口50,000人

昨年より進めてきた、これからのまちづくりの基本指針となる伊奈町総合振興計画【基本構想(平成17年度～26年度)・基本計画(平成17年度～21年度)】がこのたび議会の議決

を経て、定まりました。今後のまちづくりは、この計画を基に進めてまいります。なお、内容について、住民のみなさんには総合振興計画の概要版を作成し配布する予定です。

また、今回の計画策定にあたり住民アンケート、一筆啓上、パブリックコメント、まちづくりセッションなど、多くのみなさんのご協力を頂き進めさせていただきました。大変ありがとうございました。これからも住民と行政が一体となりますので、よろしくお願いいたします。



教育委員長に 内田 武 氏  
同代理に 別所邦子 氏  
教育長に 中村安信 氏

9月27日定例教育委員会が開催され、教育委員長に内田武氏、同代理に別所邦子氏、教育長に中村安信氏が選任されました。

役場東庁舎(1階)に  
総合案内所を設置  
しました



行政サービスのより一層の向上を図るため、11月1日から役場東庁舎1階(玄関入り右側)に総合案内所を設置しました。  
案内時間は8時30分～17時15分で、職員が対応いたします。  
どうぞご利用ください。

問 総務課 2222

# 子育てをみんなでも支援

## 少子化の原因と国の考え方

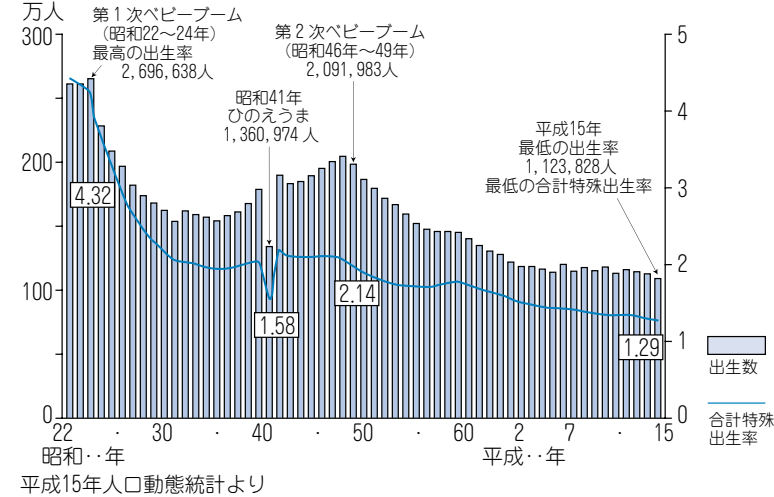
少子化の原因については様々なことが考えられますが、これまで大きな要因としては晩婚化、未婚化が進んだことがあげられていました。また、保育環境の未整備も少子化を促進する一因と考えられ、主に「仕事と育児の両立の支援」が推進されてきました。

1970年代以降、1年間に生まれてくる子どもの数(出生数)は減少の一途をたどり、70年代前半では約200万人だった出生数は、最近では110万人程度まで減少しています。平成15年には1人の女

性が生涯に産むと考えられる子どもの数が1.29となるなど、この数値は長期的に人口を維持できる水準よりかなり低く、人口減少、高齢化が進む深刻な状況となっております。(グラフ参照)

しかしここ数年、結婚後の出生ペースの低下という新たな

## 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



## 母の年齢(5歳階級)別にみた出生数

母の年齢	出生数			対前年増減	
	平成13年	平成14年	平成15年	14年～13年	15年～14年
総数 <sup>1)</sup>	1,170,662	1,153,855	1,123,828	△16,807	△30,027
～14歳	45	52	49	7	△3
15～19	20,920	21,349	19,533	429	△1,816
20～24	157,077	152,493	142,080	△4,584	△10,413
25～29	450,013	425,817	396,058	△24,196	△29,759
30～34	399,808	406,482	408,672	6,674	2,190
35～39	127,336	131,040	139,519	3,704	8,479
40～44	15,047	16,200	17,482	1,153	1,282
45～49	398	396	402	△2	6
50歳以上	4	10	19	6	9

注：1) 総数には母の年齢不詳を含む。

## 町の取り組み

### 子育て支援の充実のために

町では、平成15年度に計画策定の基礎資料とするため、就学前児童のいる家族、小学校児童のいる家族、中学生、高校生および成人式参加者の計3,356人を対象に、町の現状、子育て支援サービスの

## 意見をお聞かせください

- 計画をよりよいものとするために、次のとおり懇談会を開催します。
- 日時 12月5日(日)10時～11時30分
- 会場 町総合センター2階研修室
- 計画の概要については、公聴会の1週間前から、健康生活課、ゆめくるおよび社会福祉協議会各窓口パンフレットを用意いたしますのでご覧ください。

のニーズ調査を、また関係団体に対しては、聞き取り調査を実施しました。  
今年度については、庁内の検討会議、関係団体の代表者や公募による委員を含めた次世代育成支援行動計画策定委員会を開催し、計画策定を進めています。  
本計画では、行政、住民、民間団体や民間企業など様々な立場の人々や機関が、連携して子育てと次世代を担う子どもたちの健全な成長を支援する仕組みを構築していきます。